

新技術現場研修会

下水道新技術推進機構
(松井大悟理事長) は9
月26日、第45回(平成19

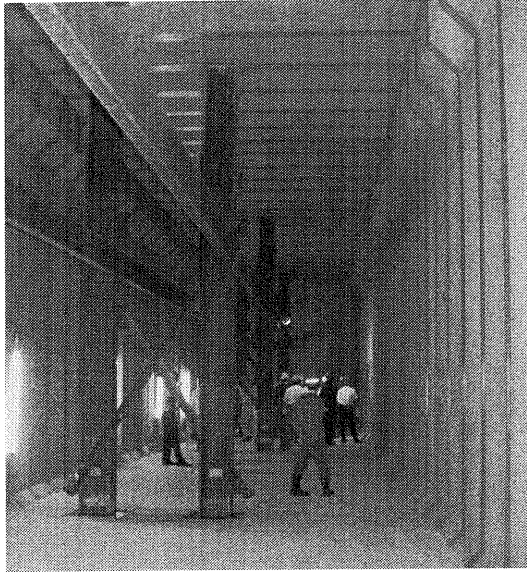
年度)新技術現場研修会
を開いた。今回は「日比
谷共同溝工事に伴う雨水
調整池設置工事」がテー
マで、プレキャスト遊水
池を見学した。

日比谷公園と皇居日比
谷濠に挟まれた日比谷交
差点付近は、地形的に窪
地になっており道路上に
降った雨が交差点付近に
集まりやすく、管きよの
流下能力も不足している
ため、道路冠水の被害も
多発している。平成15年
10月の大雨の際には、深
さ40センチの道路冠水が発生
し、車両がエンジントラ
ブルで立ち往生する事態
が発生した。

同工事はこうした浸水
被害を軽減するためにプ
レキャスト雨

水調整池を地
下に構築する
もの。共同溝
を施工するた
めに設置した

下水道機構



プレキャスト遊水池見学

日比谷交差点地下で

巨大作業ヤードの跡地を
有効利用したことが特
徴。

研修会の冒頭挨拶に立
った松井理事長は「下水

道機構も官民の架け橋と
して15周年、現場研修会
も45回目を迎えたが、実
際に自分の目で現場を見
ることが新技術の理解の

明。通常は土砂で埋め戻
す作業ヤード跡地のに雨
水調整池を設置したこと
は、浸水対策に加えて、
土地の有効利用による費

用削減効果も
あると解説。
また国土交通
省から受託し
た路面散水施
設の一部を築

造することにより、ヒー
トアイランド対策の役割
も果たすと説明。
工事詳細については前
田・熊谷特定建設工事共
同企業体の五十嵐善行監
理技術者が解説。開口部
から搬入したプレキャスト
トブロックをローラース
ライド工法により設置す
ることにより、交通量の
多い狭い作業場所でスピ
ーディーな工事となった
ことを強調。
また工法説明としてプ

ために重要」
と研修会の意
義を述べた。

続いて登壇し
た東京都下水
道局南部建設
事務所工事第
一課の玉巻寛
樹第二係長が
工事概要を説

明。通常は土砂で埋め戻
す作業ヤード跡地のに雨
水調整池を設置したこと
は、浸水対策に加えて、
土地の有効利用による費

用削減効果も
あると解説。
また国土交通
省から受託し
た路面散水施
設の一部を築

造することにより、ヒー
トアイランド対策の役割
も果たすと説明。
工事詳細については前
田・熊谷特定建設工事共
同企業体の五十嵐善行監
理技術者が解説。開口部
から搬入したプレキャスト
トブロックをローラース
ライド工法により設置す
ることにより、交通量の
多い狭い作業場所でスピ
ーディーな工事となった
ことを強調。
また工法説明としてプ

明。通常は土砂で埋め戻
す作業ヤード跡地のに雨
水調整池を設置したこと
は、浸水対策に加えて、
土地の有効利用による費

レキャスト雨水地下貯留
施設協会の福室順也氏が
空間貯留型施設であるプ
レキャスト遊水池につい
て解説した。
その後、現地に移動し、
2グループに別れて地下
の現場を視察。プレキャ
ストブロックおよび頂版
スラブを設置後、現場打
ちコンクリートで底版部
を打設し、調整池本体を
構築したところまで工事
はすすんでおり、今後は
路面舗装完了後に仮固定
用鋼材を除去、ポンプ設
備等を設置して完成とな
る。
幅9・9メートル、高さ6・
8メートル、奥行き52・8メートルの
調整池の内部は広々とし
ており、参加者に強い印
象を与えていたようだ。
なお同施設は平成20年度
より稼働予定となっている。